

2014年12月

# カンボジアかけはしプロジェクト活動報告書

カンボジアの無医村における歯科・内科治療・投薬・予防歯科教育

## プロジェクト概要

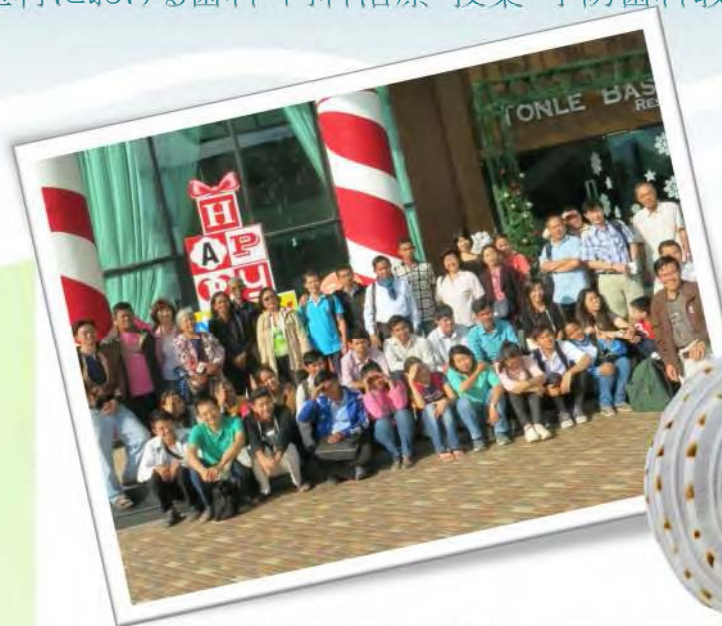
カンボジアかけはしプロジェクトは米国在住の元カンボジア難民の団体【ケマラセンター】のメンバーと共に活動しています。ケマラセンターでは、2000年より毎年クリスマスにメンバーの祖国カンボジアの農村を2週間以上かけて十数カ所廻り、米、文房具、医薬品などの物資を届けて、今回が15回目となります。2014年は、バイオインテグレーション学会会員の先生方のご支援をいただき、無医村における歯科・内科治療、投薬、予防歯科教育を実現することができました。3カ所の無医村で、3日間にわたり、延べ601人の患者さんに治療、投薬を行うことができました。

募金総額 **509,830 円**

歯ブラシ寄付 **3,500 本**

歯科治療人数 **112 名**

内科治療人数 **489 名**



## カンボジアの子供達の口の中は虫歯だらけ

3歳児で約6本、4歳児で約8本、5・6歳児で約10本  
毎食充分な食事がとれず、安く空腹を満たせるお菓子等をだらだら食べ続け歯磨き習慣も無いため、治療を受けられず虫歯は放置されています

「歯医者さんが村に来てくれないかなあ・・・」

2014年夏、米国チームのリーダーがそうつぶやいたことから、このプロジェクトが始まりました。東京医科歯科大学の田中収客員臨床教授より、カンボジアのNPO医療奉仕団体【HCF (Healthcare Christian Fellowship)】をご紹介いただき、この団体に所属する歯科医と研修医10名、内科医と研修医10名、医学生5名が、大量の機材を準備して医療ツアーに参加してくださいました。つまり、今回のプロジェクトは米国-日本-カンボジアの3国の協力チームにより実現し、メンバー総数は40名以上になりました。(写真上)

2014年12月23日～25日

23日

**Kbal Koh 村**

プノンペンから1時間

シアヌーク高校にて

歯科治療 40名

内科治療 145名

24日

**Tuol Sala 村**

プノンペンから1時間

村の教会内にて

歯科治療 30名

内科治療 184名

25日

**Koak Thlong 村**

プノンペンから2時間

村の教会内にて

歯科治療 42名

内科治療 160名





医療ツアー第1日目。シアヌーク高校では高校生達が出迎えてくれて、盛大な式典が催されました

校庭の木の下に数百人の高校生達が座り、チームメンバーには美しい布で飾られた来賓席が用意されていました。生徒の後ろに100名程の村人達が座っていました。

## 医療チーム登場！

校舎の3つだけある教室が、一つは歯科治療室、一つは内科診察室、一つは薬局として、手早くセッティングされていきます。歯科チームは、5台の簡易デンタルチェアを含む大量の機材をセッティングして、治療が始まります。医療チームは年数回海外の医師団と活動を行っているだけあって、大変手慣れており、機材も揃っています。電気が供給されていて電気エンジンを使用しての治療も可能でしたが、ほとんどがひどい虫歯のため抜歯となりました。



## 診察室の前には、問診票を手にした長い行列が！

5台のデンタルチェアだけでは足りず、教室の机の上にも患者を寝かせて治療。高校の生徒だけでなく、近隣の村からも、大人や子供が治療を受けにやってきました。12歳(でもどう見ても8歳くらいにしかみえない)の少女は手の施しようのない虫歯で、フッ素を塗って崩壊を遅らせることしかできず、胸が痛みました。

## 内科診察室、薬局も大盛況

内科の診察を希望するのは主にお年寄りで、診察室の前は長い行列になりました。主な診断は、過酷な農作業による関節痛、骨折が放置されたもの、結核、胃潰瘍など。バセドー病患者も見つかりましたが、病院での治療費が無いため、家に帰さざるを得ませんでした。活動資金の一部をそのような患者に病院での治療を受けさせる治療費としてプールしておくことが今後の課題です。医療チームは大量の医薬品も用意し、処方箋を持って待つ患者で薬局も大盛況でした。



## 治療を待つ間に歯磨き指導

ご寄付いただいた歯ブラシを使い、治療を待つ間に歯のモデルを用いて高校生達に歯磨き指導。恥ずかしがって口元を隠している女子高生もいます。また、米国の眼科医の先生からのご寄付で、中古の眼鏡を段ボール一箱持って行ったところ、大人気で、高校生も大人も、あれこれ試しては、自分に合うものを喜んで持って行ってくれました。来年は日本チームとして眼鏡も持って行く計画ですので、ご不要になった眼鏡のご寄付をお願いいたします。村人達が医療チームの提供した食材で豪華な昼食を用意してくれて、その後治療は午後も続きました。夕方、村にお米300キロを寄付して帰路につきました。





### カンボジア HCF 医師団の頼もしいメンバー

医療ツアー2日目は、メンバーの後ろに写っている教会での活動となりました。この日も、数百名の村人が、医療チームを待っていました。広い教会が待合室兼受付となり、横に建つ三つの建物が、それぞれ歯科治療室、内科診察室、薬局となりました。診察を待つ間、子供達を集めて歯磨き指導。子供達に渡した歯ブラシ以外にも、牧師さんの娘に100本ほどの歯ブラシを渡し、子供達に指導を継続してくれるよう、頼んできました。この日も、子供から大人まで、歯科治療室では数十本の抜歯が行われました。待合室では米国チームによるウクレレ、マンドリン演奏も行われました。

医療ツアーでどこの村へ行っても、集まってくるのは老人か幼い子供ばかり。聞けば、働き盛りの若者はみんな出稼ぎに行ってしまうとのこと。歯磨き指導も、子供ではなく親に行えれば良いのですが、肝心の親がいません。過酷な農作業のせいで、老人達は一様に、年齢以上に老けて見えます。農村でも、店が集まる所には、歯のイラストの看板を掲げた歯科医院がかなり見られますが、抜歯一本10ドルという金額は、換金作物をほとんど作らない農民にとっては、とても払える金額ではないそうです。



内戦により、カンボジアは多くの知識層の人材を失いました。保健医療分野も例外ではありません。

人材育成も立ち後れ、農村部における医療サービスも行き届いておりません。そんな中、HCFの若い医師達は、勇気と情熱を持って治療を行ってくれました。労をねぎらうと「奉仕することができて嬉しいです。このような機会を設けてくださってありがとうございました。」と逆にお礼を言われて感動しました。彼らのような若者達が、カンボジアという国を良い方向へ変える原動力になるのだろうと感じました。

## 医療ツアー最終日

### 最も条件の厳しい一日となりました

ポルポト政権の前まではジャングルだったという田園地帯を走り、どこに村があるのかといぶかっていると、突然教会が出現。中では数百名の村人が待っていました。子供達が伝統舞踊で歓迎してくれました。田中教授がスピーチをされ、「この中で歯科治療を希望する人は」と問うと、約40名の手が挙がりました。教会の隣の野戦病院よりひどい建物で治療が始まります。



### 田中教授自ら若い先生方にご指導下さいました

電気の供給がないため扇風機もなく、気温40度近く、風もなくて立っているのがやっとの暑さの中、田中教授自ら、若い先生方にご指導下さいました。ひどい虫歯で、若い先生は手に負えないので治療は諦めて患者を帰そうとしたところ、田中教授のご指導で、治療を行うことができたという一幕もありました。

### ここでも子供達を集めて歯磨き指導

ご寄付いただいた歯ブラシを使って、ここでも歯磨き指導を行いました。歯科治療と並行して歯磨き指導を行うことにより、口腔衛生に対する意識が高まることが期待されます。虫歯は予防可能であること、口の中が健康になれば他の感染症の予防にもなること、何より、自分の歯を大切にすることを伝えられればと思います。



### 今日も内科診察室は大盛況

広い教会の中では、常時7名の医師が診察にあたります。これまで検診など受けたこともない人たちも多くいたようです。診察室の前にも薬局の前にも、今日も長い列ができました。薬局の中では、薬剤師の資格を持つ米国チームのメンバーも手伝って、薬を仕分けします。歯科医ではないメンバーも、機材消毒のお手伝い。

## ご支援いただいた皆様のおかげで、601名の患者さんに、その多くは恐らく初めて受けるであろう医療を届けることができました

当プロジェクトにとって初めてとなる医療ツアーは現地医師団の先生方のご尽力で、大変大きな成果をあげることができました。ひとえに、ご支援いただいた皆様のおかげと、感謝しております。

本当は、外国からの援助に頼ることなく、カンボジア政府が社会保障を充実させ、誰もが必要な医療を受けられる社会にしていくことが理想なのでしょう。援助団体が気まぐれなプロジェクトに投資をして、終わったら去って行くことにより、現地の人の生活がより悪くなることのほうが多い、ということも現実です。しかし、訪れた農村に働き手の姿はなく、若者たちは皆出稼ぎに行き、村には老人と子供ばかり。老人達は過酷な農作業から、一様に関節痛を訴え、年齢以上に老けて見える姿には、生活の厳しさが窺える。その人たちに、自立、自助の精神で、などと言っても、それは酷なものではないかと思えます。カンボジア政府が国を良くするには、あの様子ですと、途方もない時間がかかりそうです。医療サービスが農村に行き届くのは、まだまだ先のことになりそうです。それまでの間、今リューマチに苦しむ老人に薬をあげることができたら歯の痛みに苦しむ人の痛みを無くしてあげることができたら、それは大きな成果と言えるのではないのでしょうか。歯科治療と並行して、予防歯科教育を行っていくことにより、一時的でなく継続的な子供達の歯の健康を目指していきたいと思えます。抜歯に頼らない保存治療も行っていけるかが、今後の課題となります。内科治療に関しましては、病院へ搬送する必要がある患者が見つかった際に、それが出来るシステムを構築することが課題です。

### いただいた寄付金は・・・

寄付金総額 509,830 円(=4,250ドル)は、今回のプロジェクトの支援金として、全額を米国チームリーダーHongly Khuy氏にお渡ししました。その使用内訳は、カンボジアHCF代表 Dr.Ros Socheatからの請求に基づく、医薬品代、歯科機材代、医療奉仕団の交通費として2,100ドル。残り2,150ドルは村への食材提供、日米チームの交通費バス代、朝・夕食費、及び、その後の米国チームの奉仕活動の支援金として使われました。

### 活動終了後

12月26日は、HCFの歯科医がボランティアとして働くプノンペン・ミスサマラン(カンボジア語で友達)という、ストリートチルドレンを保護する施設を訪ねました。医療法人高輪会様よりお預かりいたしました歯科治療機材は、この施設に併設されたクリニックに寄贈致しました。クリニックにはデンタルチェアが一脚あるのみなので、今後歯科治療ができるよう、田中教授が簡易バキュームと超音波スケーラーを寄贈なさいました。



ミスサマランのクリニックにご寄付いただいた医療機材  
今回の歯科・内科治療ツアーは、東京医科歯科大学の田中収客員臨床教授のご助力がなくては実現できないものでした。わざわざカンボジアまでご同行くださいました田中教授に、この場をお借りいたしまして、心から御礼申し上げます。



## 引き続き皆様のご支援をお願い致します

2015年は、当プロジェクトではさらに規模を拡大してカンボジアにおける歯科・内科治療、投薬活動を行っていきたいと思います。時期は例年と同じ、クリスマスの頃。年末のお忙しい時期ではございますが、治療活動に参加して下さる歯科医の先生方を募集しております。募金活動も引き続き行っております。皆様のご協力をぜひともよろしくお願い申し上げます。

募金は下記の口座にて  
受け付けております。



### 募金専用振込み口座

三菱東京 UFJ 銀行

高田馬場支店

店番号 053 (普通)0998086

カンボジアカケハシプロジェクト カキモト ユウコ

### ※ 寄付申込書 ※

|            |  |
|------------|--|
| お申込者氏名     |  |
| ご住所        |  |
| お電話番号・メルアド |  |
| ご紹介者名      |  |
| ご寄付いただける金額 |  |

- 連絡先 カンボジアかけはしプロジェクト事務局  
柿本 夕子

メール : cambodia.kakehashi.Project@gmail.com

FAX : 03-6272-9968